

## 議事概要「多度津町自分ごと化会議\_第二回」

日時／場所	2024/8/12（月）13:00～16:00 多度津町地域交流センター2階ホール
参加者	委員（住民）22名
出席者	多度津町：吉田政策観光課長、山本政策観光課長補佐、合田政策企画係長、坂本主事 （株）パブリックテクノロジーズ：青木代表、中田 （一社）構想日本：加藤代表、小瀬村、瀧口、石原
オブザーバー	有限会社多度津タクシー 松岡氏

「これからの多度津の地域交通」を考えるための自分ごと化会議の第2回目のレポートです。パブリックテクノロジーより公共交通施策の先進事例の紹介も挟みながら、前回に引き続き2つの班に分かれて対話をすすめていきました。会の終わりには「改善提案シート」に各自が考える課題と改善提案を記入し、提案書にむけた最初の意見出しを行いました。

### サマリー

- ✓ 第2回は「これからの多度津の地域交通」について、2班に分かれて論点の洗い出しを行った。
- ✓ 新しい公共交通の仕組みとして「オンデマンド型交通」「ライドシェア」の事例が発表された。
- ✓ 既存の事業の改善点や新しい事業の検討など、生活者視点の活発な議論がなされた。

### 前回の振り返り

- 前回出た論点（構想日本・小瀬村）
  - ◇ 必要性について温度差がかなりあった。「自分は車に乗れるので移動に困っていない。」という方もいらっしゃる。「通院などでチケットが足りなくて、残りは自費で出しているんだ。」という方もいらっしゃる。また、「タクシーチケットが余っていて、最後に使い切っちゃうんだ。」という方がいらっしゃるというような意見もあった。一方では、「もうこんなことしてはいちゃいけないんだと。今のうちになんとかしないと、この町の衰退に歯止めがかからない、交通がどうしようもなくなってしまう。」というご意見もあった。
  - ◇ 利便性の問題。「行きたい時に行きたい場所へ行けない。これが大変不便である。」と、それから「免許を返納したら全く移動ができなくて本当に困る。」というご意見や「移動手段がないと家に引きこもっちゃうんだよな。」というようなご心配もあった。
  - ◇ 費用に関する懸念、需給バランスの問題も指摘された。「行政システムに限界があると、もっとやってほしいことがたくさんある。だけど、行政の税金の使い方には限界がある。」また、「かかる費用に差がありすぎるんじゃないか、必要な人にもう少し回した方がいいんじゃないか。」というようなご意見もあった。必要性に応じての費用の配分になっていない。
  - ◇ 多度津町にはコミュニティバスがないけれど、隣の町にはある。うちの地区には交通網がたくさんあるけど、駅前はどうでもない等の比較の問題もいくつか指摘された。
  - ◇ バリアフリーや生きがいづくりなどについてのご意見があった。タクシーチケットという

のは認知症になったご本人は使えない。ご家族が一緒に行かないと使えない。両親が気軽に外出できたら、楽しい生活が送れる。健康管理・認知症予防にもなる、生きがいづくりになるんじゃないかという意見。また、外に行くにも、交通信号や道路の段差なども含めたバリアフリーの問題もあるから、自由に行こうと思ってもできないところがあるというようところで、皆さんの中で持っている地域交通へのもやもやというものが出された

## ● ご質問ご意見への回答（多度津町）

### Q. 会議への20-30代への参加について

A. この会議のご案内は16歳から79歳までの方に送付。20代や30代の方からは、欠席の理由として、「お仕事等で都合がつかない。」という回答を多くいただいている。今後、住民の方々をお呼びする会については、多くの世代の方に参加いただけるように、曜日や時間帯などを引き続き検討していきたい。

### Q. 離島航路（フェリー）の存続を心配する声について

A. 離島航路につきましては、国・県と共同で運行を維持するための補助金を交付して支援を行っている。今後も航路を継続いただけるよう町としても支援を継続していきたい。

### Q. コミュニティバスを設置できない理由について

A. コミュニティバスについては、設置ができないということではない。バスについては、例えば通勤や通学など決まった時間に一定の利用者数がある場合に適しているという性質がある。逆に、同じ時間帯に一定の利用者数がない場合、利用者がいない状態、いわゆる空バスと呼ばれるような状態で運行してしまうことになる。町単独でバスを導入する場合、多額の事業費をかけながら空バスが運行してしまうリスクが高いと考えている。また、高齢者の方に関して、過去に実施したアンケートでは「ドア to ドア」いわゆるご自宅から目的地までの送迎を希望する方が多いという結果もあったことから、町としてバスの導入は行ってこなかったという経緯がある。

### Q. 将来的に3つの福祉事業をまとめられないか

A. 現時点では、地域交通の核となる新たな事業を検討し、実際に新たな交通施策を実施した後、ブラッシュアップを行っていきたいと考えている。

### Q. キャッシュレス決済やマイナンバーの活用、誰ひとり取り残さない交通の在り方について

A. 今後は、様々な方が利用できる地域交通の導入を進める必要があると考えている。今回の自分ごと化会議を通じて皆様方のご意見をいただき、多度津町に適した交通手段を検討していきたい。併せてキャッシュレスなどのデジタル技術についても、利用者の方の利便性を考えながら、多度津町に適した手法を考えていきたい。

## 議事メモ（グループ議論① 課題の洗い出し）

### （1班・進行\_小瀬村）

## ● チョイ来た事業について

- ▶ ボランティアじゃなく、適切な報酬を払ってあげれば良いのではないか。
- ▶ 若い人（30-40代）でも副業が可能であったり、時間が余ってる人がいる。そういった方に、担い手となってもらうことも有効ではないか。

- 高齢者福祉タクシー事業について
  - 今の仕組みだと、「タクシーチケットを使い切らないと損」という考えがある。
  - 1人1万円ではなく、年間で使った額に応じて補助を出すなど、制度を変えてもいいのではないか。
- 買い物ツアー事業
  - 曜日を決めて、商業施設と連携をしても良いのではないか。
  - 大きなバスじゃなくても良いので、小さいことで何かを試してほしい。
- 新しい交通施策について
  - 今治市の知人から「mobi」というサービスがあると聞いた。予約型のバスが1回300円で乗れるとのこと。
  - 丸亀市の一部では、デマンド交通が導入されている。現在、複数の交通サービスが多度津町ではあるが、このような1つのサービスにまとめても良いのではないか。
  - 一般ドライバーが誰でも乗せるのは、危険な一面もあるのではないか。責任の所在が課題となる。ボランティアだけで成立するのは疑問。
  - 既存の多度津町のサービスでも、バス停型／ドアツードア型がある。家の前まで来てほしい人もいるので、ターゲットによって必要性の判断が必要。
  - 自分が健康であれば、丸亀や善通寺でやっているような循環バスでも良い。そうでない場合にはドアツードアでないと困る。チョイ来たは今のまま残し、買い物ツアーの延長で循環バスを導入すれば良いのではないか。
  - ただの移動サービスでなく、「他人とお話できる」仕組みがあると尚良い。
    - 認知症予防に繋がる。ある研究だと1日8名以上話すべきという結果もある。
    - 「自分の健康は自分で作る」というような意識も必要。
  - 一人一人のニーズが全く異なる。移動の目的や時間も異なる。移動サービスだけでなく、訪問型のサービス（移動スーパーなど）があってもいいのではないか。
    - 楽しめる場所の整備も必要。
    - 多度津町は公共施設が点在しているので、そこも課題。
    - お年寄りには、時間に束縛されるのは難がある。
  - 自分がもし一人だったらと考えた。暑い中でバス停まで行きたくない。時間に縛られたくない。行く場所にも縛られたくない。これらを揃えらるとなると、タクシーに近いサービスが良いのではないか。
    - お金をどうするか？
    - 1ヶ月の定額制とすればいいのではないか。=mobiのようなサービス
  - 参加者に若者が少ない。これは地域交通に困ってないからであろう。つまりテーマとしては自家用車の使えない「交通弱者」をどのように救うか。自治会の顔見知りの人に送迎を頼める仕組みを行政が整備してくれないか。(=チョイ来たのような仕組み)
    - 「行政に制度を作ってもらおう」だけでなく、「自分が何をできるか」を考える仕組みが重要。
  - 移動以外も含めて、困ったことがあった時に身近な人に頼める仕組みを作してほしい。

## (2班・進行\_瀧口)

- 新メンバーの自己紹介
  - 福祉関係の仕事をしていて、常に「移動の足の問題」は皆様から話を聞く。何か解決策が見つかるかなとか、多度津町のことなので自分ができることが何かあればと思って、お話を聞かせてもらおうと思って参加した。
  - まちの福祉に関わっていきたい。自分で利用できない方もいる。今後のことを考えていきたい。行政との関係も勉強したい。
- 前回出た共通の関心「免許返納後の交通手段とその暮らし方への課題」
  - もともと免許を持ってないご老人の方、独居老人という方が多分増えている。生活の上で、たまたまその近くにご親戚の方とか、ご子息の方が近くでなくてもいらっしゃって、その方が定期的に来て補助しているようなことが増えてきている。
- タクシーチケットの理想的なあり方
  - 利用の実績が少ない。よく利用して、もう全部使ってしまう方もいれば、移動手段があるのであまり使わない方もいるという実態。その辺の相互のやり取りみたいなことがあればと前回から考えていた。
  - 本人が乗らないと使えないが、本人と一緒に同乗すれば介助者も利用できる。前は送ってきてくれたが今は申請制。利用率が少なかったので、使わない人は必要ないんじゃないかということで、多分申請をするようになったんだと思う。
  - 例えば、私のチケットが余っているので違う人に譲れないかというのを町に報告して、プールして、希望者がいいただくというやり方ができるんじゃないか。
  - チケットを全員が使うと、その分の財源負担になる。本当に使っていない人の分を全部タクシーチケットとして使うのがいいことなのかは検討したほうがいい。
  - タクシーがいつまで存続するか。最近タクシーを呼ぶのに待ち時間が増えている。無くなることも将来考えられる。時間的にも大体 19 時~20 時で営業をやめてしまったタクシーが多く、何かあった時に、タクシーが使えない状況が出てきている。
  - チケットではなく、何らかのアプリを入れてマイナンバーカードを使って登録するのはどうか。運転免許証も今後マイナンバー化できるようになるので、それにプラスアルファで福祉タクシーチケットという、自治体が使える枠をその中に登録してもらえば、自治体の方も手間が省けるし、本人も申請に行かなくてもネット申請するか郵送で申請できるというメリットもあるんじゃないかなと思った。
  - 自分で車があるため、ほとんどタクシーチケットを使う機会が少ない。
  - 公平性の問題として、実際に使っている方が半数、残りの半数は使わなかった。やっぱりこの差というのはちょっと大きい。
- 親族以外に安心して頼れる仕組み
  - 私の母も認知症を患っている。同居しているので今までできているが、そうではない方をどうやってサポートしていくのか。介護保険とかいろんな制度があって、そういったところでサポートできると思うが、私自身が認知症になった時に、将来困らないのかなという不安がある。

- 病気の方もいらっしゃったり、いろんな状況の方がいらっしゃる。今後、サポートする人が減っていくんじゃないかという不安がある。
- 私はもうちょっとで80歳。本当はもっと早く自治会に関わっていけばよかったが、実際、現役時代はいっぱいいっぱい無理だった。
- もし仮に免許を返納して、もっと年を取って車に乗れないことになったら、当然家族に頼む。でも家族といっても、どこまでお願いできるのが分からないので、みんなが集まりやすい場所が必要。

#### ● 新しい公共交通

- デマンド型の乗り合いタクシーみたいなもので、そこからそこまで行くのに300円から500円ぐらいの移動手段があったらいい。
- 子育て世代で車を持っていない若い人や、外国籍の方も多分車に乗れないと思うので、困っている人たちを全方位でフォローするということになれば、予算も変わってくるのではないかな
- 私は白方小学校の方に住んでおり、児童が非常に少なくなって深刻な状況。将来的には小学校が二つになるという話を聞いた。そうなった場合、通学バスが必要になる。それも利用して高齢者も一緒に乗れるというのも考えたらどうか。
- コミュニティバスは難しいということだったが、例えば、豊中地区のコミュニティバスであれば、三豊からも来て、当然豊中地区の近くのバス停にも降ろしてくれる。それがそのまま高瀬小学校と香川県立高瀬高校のちょうど中間地点にバス停があって、そこで降ろしてくれる。三豊や豊中地区だけでなく高瀬の高校もフォローしてくれるようになるので、結構通学している子は多い。

#### ● チョイ来たの課題

- 事故があった時の責任が全面的にかかってしまうので、ボランティアに頼りすぎるといのはちょっと現実的ではないのかなと感じる。
- 親戚同士や隣近所というのがあったらいいが、すべてそうもいかない。タクシーとかプロの方をお願いするというのは非常にいいのではないかな。
- 自治会規模という話があったが、私自身自治会の方と交流があるかという、仕事をしている関係で、どんなご高齢の方が困ってらっしゃって、どんな状態かというのは十分把握しきれていない。できればみなさんに教えていただいて議論したい。
- 自治会活動は定年後から。それまではやっぱり仕事で無理だった。だから、今頃になってやっと近所の状態とか、そこでどんなことをやっているのかが分かってきて、自分が動けるようになった。
- 私は運転が苦手。誰かを乗せてあげたい気持ちはあるし、頼まれたらやるが、システム化した場合、何か事故が起きたときに問題になる。人身事故があった場合とか。
- 責任問題がきちんとクリアできれば、もっとボランティア的な人も増えていくかもしれない。その辺がやっぱりみんな不安。
- 完全なボランティアではなかなか集まりづらい。
- 責任的なものは別に担保できる。保険や車両の補助金等。リースもあるときいた。
- 現状にあるタクシーとかですら、ボランティアで運転手を募集して、一つの検証をしてやって

いるところもある。

➤ どうしても定年退職した後の人からでないといけない。

● その他論点洗い出し

➤ 日本の人口構成は 80 代と 50 代の人が一番膨らんでいるので、その構成から考えても、将来ちよっと不安なところがある。

● 買い物ツアー

➤ 一つのことだけに固定するんじゃなくて、湯楽里のマイクロバスを動かしたらどうかという話も出ていた。せっかくある物を使ったらどうか。

➤ 運転手の方もいらっしゃるし、ものもあるんだからという話も出ていたと思うんですけど、ただ、どういう運行をするか課題がある。現在は買い物で全て週 1 回。

➤ 湯楽里の買い物バスの目的はもともとは交流促進という側面があった。

➤ 買い物する先のスーパーに協力をしてもらうのはどうか。そちらからバスを出すという集客手段としてありえるのではないか。

➤ 民間の事業者と一緒に何かできることはないかという検討を始めるというのは一つ考えられるかもしれない。地域によっては、買い物難民対策として移動販売をやっているという話は聞く。スーパー等とタイアップして移動販売をすとか。コンビニがやっているところもある。

➤ 昔は、我々の地域にも商店が移動販売に来ていた。その移動販売する人の後継ぎがない。それは利益の問題だろう。だからそれが衰退した。

➤ お客様が減っていく。今まで 10 人来ていた人が 5 人になり、3 人になるという具合に。やっぱり効率が悪くなって手を引いていった。

➤ 買い物の問題だけであれば、多度津町の地域のスーパーとか、今二つも大きいスーパーがあるから、そういうところの移動販売も一つの方法としては考えていくべきかもしれない。

➤ 企業とタイアップして両方が出資して補助するという方法もあるのでは。企業側にもメリットがあるという形になると思うので、同じバスの中で、ビッグなりイオンなりがお金を出し合って運行する。その途中にあるウツミ整形もすぐ寄ってあげますよとか。

➤ 単純に移動販売で、その人の家に行くというのだけだと、それは便利だけど、そこまでだったりする。乗り合いでみんなで買い物に行くとか、もしかしたら移動販売も一つ拠点を設けて、そこにみんな集まってきて、民家とかに集まってきて買い物すとか、そういうふうな仕組みにしていけたら、少し地域の中で、皆さんの課題になっていた関係性を作っていく下地になっていくかもしれない。

● 議事メモ (グループ議論② 全体対話)

● パブテク\_中田よりご説明

➤ 四国運輸局からの提供資料に基づきご説明

◇ 国内におけるライドシェアサービスについて

- 公共ライドシェア (自治体主導) と日本版ライドシェア (民間主導)

◇ AI オンデマンド交通など、その他の交通サービスについて

◇ 主な法令と運用事例

● パブテク\_青木よりご説明

- 自己紹介
- 日本全体の交通課題について
  - ◇ 移動需要の分散
  - ◇ 移動総量の低下
  - ◇ 担い手の減少
- パブリックテクノロジーズ社の取り組みについて
  - ◇ 茨城県行方市 (AI オンデマンド交通)
  - ◇ 石川県小松市 (公共ライドシェア)
- 国内・海外の自動運転サービスの事例について
  - ◇ 福井県永平寺町
  - ◇ 米国アリゾナ州
- 持続可能な公共交通を考える上で大切にしていること／参加者の皆さんと議論したいこと
  - ◇ 皆さんとあらゆることを議論していく中で、ただ単に自動運転を入れれば正解だったりとか、僕らが今手がけている乗り合いタクシーを入れれば正解だとか、ライドシェアを入れれば正解って、数式みたいなものではないので何かをやれば正解というものはない。
  - ◇ 全国津々浦々でいろいろ見てきてる中で、こういうものとかこういうものとかこういうものを組み合わせると、よりベストな形に近づきますよねというご提案はできたりとか、こういうご意見だったり、参考の事例はお話できるが、最後は地域で暮らしている皆さんが使っていくものなので、納得感だったり、こういう地域になって人の動きがより活発になってほしいと、暮らしやすいかつ暮らし続けたい町になっていくことが重要。
  - ◇ 皆さんの議論を通して、地域の公共交通の未来や皆さんにとっての納得感のある未来というところを描いていくことができればいい。

## 議事メモ (グループ議論② 全体対話)

### (1班・進行\_小瀬村)

- アプリ配車のハードルについて
  - ◇ 家族・地域で使い方を教え合えるといいのではないかな。
  - ◇ 今のうちから知っておければ、自分が必要となった時にすぐ使える。
- 国の補助制度を使えるのは良い。
  - ◇ 香川県では現状制度がないとのことだが、折角やるなら補助金も使いながらできるといい。
- デメリットについて考える必要があるのではないかな。
  - ◇ 人口が増える地域・減る地域がある。同じ税金の負担で、不公平が出てしまう懸念がある
  - ◇ 将来の子供たちは、予算の使い方に OK を出すのか？
- 乗合型による待ち時間や到着時間をどの程度許容できるか。
- 楽しいまち＝人口が増える。
  - ◇ 町のいいところ巡りなどもやりたい。
- 調査が必要。どんな移動需要があるのか・どこが目的地になるのか・何台必要なのか。

## (2班・進行\_瀧口)

- 新しい交通への期待
  - デマンド型交通のように誰でも使える仕組みがあれば、タクシーチケットの利用なども本当に必要な人だけに減らしていける。
  - タクシーチケットをプールして希望者に配布。余剰のチケットの活用。
- タクシーチケットの電子化と再利用方法
  - (青木さん宛に) 電子化した場合の話なんですけどなにか方法ありますか？
  - 公平性を保つという意味では、どういうルールを決めて何で傾斜をかけるのかというのをルール決めするのが難しい。ただ、チケットの電子化はできる(青木さん)
- デジタルテクノロジーの利用に関して
  - スマートフォンやライドシェア等を導入する上で重要。普及率や実際高齢者が使えるかってすごい大きな課題にはなってくる。どうやってそれをいろんな人が使える状況にするのかとか、それを教えることができたりする環境をつくるのは行政だけではなかなか難しいところだと思うので、地域の中だとか自分ができることの中で、もしかしたら一つやっていけると思う。
  - 高齢者の人、固定電話しかない人もいらっしゃるかもしれない。